

第42回日本自然災害学会学術講演会 スペシャルセッション
ホンネで語ろう「ぼうさい」イブニングカフェ 『防災教育の現状と課題』

中国・四国地区世話人 徳島大学 金井純子・井若和久

1. 趣旨

新型コロナウイルス感染症の流行により、当学会の研究発表会がオンライン開催となるなど、会員同士が顔を合わせて意見交換する場が失われました。そのような中、オンラインで肩の凝らない、しかし、本質的な議論をできる場を作りたいという思いから『ホンネで語ろう「ぼうさい」イブニングカフェ』がスタートしました。今年8月で8回目を迎え、学会会員のみならず、自然災害に関心のある方々の新しい交流の場となりつつあります。

この取り組みをさらに盛り上げていくため、第42回日本自然災害学会学術講演会のスペシャルセッションとしてイブニングカフェを開催する運びとなりました。テーマは『防災教育の現状と課題』です。第2回イブニングカフェの内容を踏まえて、防災教育に取り組む中で感じている悩みや疑問を皆で共有し、それらの課題解決につながるヒントや気づきを得ることを目的とします。また、防災教育の方向性について、今後も学会で議論を重ね、情報を共有する形として論文にまとめていきたいと思っております。多くの方のご参加をお待ちしております。

表-1 ホンネで語ろう「ぼうさい」イブニングカフェ 開催実績

	開催日	テーマ	世話人
第1回	2022年6月23日	くまもとクロスロード研究会の実践と課題	九州地区 竹内裕希子
第2回	2022年8月25日	子供たちへの防災教育と“モヤモヤ”	中国・四国地区 井若和久・金井純子
第3回	2022年10月20日	本音で語ろう「これからの関西の防災」	関西地区 奥村与志弘・城下英行
第4回	2022年12月20日	個人的なケアの経験と、ケアとしての避難学試論	中部地区 小山真紀・秦康範
第5回	2023年2月16日	知っておきたい災害保険の現状と今後	関東地区 大原美保・齊藤さやか
第6回	2023年4月27日	復興のホンネー東日本大震災でのできごとー	東北地区 佐藤健・佐藤翔輔
第7回	2023年6月15日	炎上必至 “自助中心主義対策にあえてもの申す”	北海道地区 高橋浩晃
第8回	2023年8月24日	最近よく耳にする「災害ケースマネジメント」ってなに？	中国・四国地区 井若和久・金井純子

2. 第2回ホンネで語ろう「ぼうさい」イブニングカフェ『子供たちへの防災教育と“モヤモヤ”』の振り返り

第2回ホンネで語ろう「ぼうさい」イブニングカフェ『子供たちへの防災教育と“モヤモヤ”』は、2022年8月25日中国・四国地区の企画としてオンラインにて開催しました。

防災教育には、小中高の教員、防災士、自主防災会会員、防災や自然災害の専門家、行政職員など、様々な立場の人達が関わっていますが、「子供たちに何をどう教えるべきか分からない」「防災の指導に自信がない」「教育効果が見えづらい」「指導者の自己満足になってはいないか？」など、指導者は多くの悩みや疑問（モヤモヤ）を抱えているのが現状です。そのようなモヤモヤ解消につながるヒントを得るため、ゲストスピーカーとして、学校等と連携して防災教育を実践されている徳島大学環境防災研究センターの松重摩耶氏と愛媛大学防災情報研究センターの山本浩司氏をお招きし、「四国防災八十八話などの防災教育活動について」「事前復興の視点から学ぶ防災教育について」それぞれお話し頂きました。

また、参加者への事前アンケートより集められたモヤモヤ情報を踏まえて、ゲストスピーカーや参加者がディスカッションを行い、モヤモヤ解消につながるヒントや気づきを得ることができました。



徳島大学環境防災研究センター
 助教 松重摩耶氏
 「四国防災八十八話などの防災
 教育活動について」



愛媛大学防災情報研究センター
 特定教授 山本浩司氏
 「事前復興の視点から学ぶ防災
 教育について」

表-2 防災教育の指導者が抱える悩みや疑問 (モヤモヤ)

防災教育の指導者が抱える悩みや疑問(モヤモヤ)	
①防災教育の内容・水準・時間 (8件)	<ul style="list-style-type: none"> ・「防災の専門家」といわれる方々の知見が分かれる時、何を根拠として教育に取り入れるべきか迷うことがある ・エビデンスのないあやしい防災情報が多いこと、縦割り行政で省庁ごとに違う事を言ってる事 ・参加して楽しい防災教育イベントとはどんなものだろう ・学年、発達段階、学習経験に応じた内容となっているか ・どのような難しさの話をしたらよいかわからない ・伝える事 ・与えられた短い時間で、幅広い防災の何を知ってもらえばいいか、知ってもらえるのか ・短い時間では中途半端
②防災教育の成果・評価の指標・方法 (6件)	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育の成果をどのように把握するか ・成果指標をどのように設定するか ・子供の気持ちをデータ化する方法 ・子供達の反応が明確でない ・どこまで理解してもらったのか？確かめる手段が難しい ・出前講座を担当したがこれでよいのか自信が持てない
③学校・教職員に関すること (4件)	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の温度差 ・教育現場との認識のギャップ ・学校等が教えたい内容とこちらの理想が合わない ・学校教員に響いていない感じ
④その他 (6件)	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の低学年と高学年が混ざると難しい ・誰も真似できない、継続することのできない大掛かりな超優良事例を実践したり、誰も使わない防災教育マニュアルやテキストや授業案を大量に生み出すことに本当に意味があるのか？ ・関心が大災害から時間が経つと減りがちなこと ・名前は防災教育なのでしかたないが、防災を教えることに特化しすぎ ・地震想定訓練で、教室に戻ってくる前提で何も持たず教室の後ろに整列する様子を見て、ランドセルは避難に邪魔なのだろうか

3. スペシャルセッションの内容

○日時：2023年9月18日（月・祝）9：00～10：30

○場所：金沢大学 角間キャンパス 会場 A 講義室 201 室

○テーマ 『防災教育の現状と課題』

○内容：第2回ホンネで語ろう「ぼうさい」イブニングカフェの拡大版企画です。防災教育に取り組む中で感じている悩みや疑問を皆で共有し、課題解消につながるヒントや気づきを得ることを目的とします。ゲストスピーカーの皆様には、第2回イブニングカフェで収集したモヤモヤの中から共感するものを1つ選んで頂き、自身の経験や考えについて熱く語って頂きます。

○スケジュール

9：00～9：20 趣旨説明、ゲストスピーカー紹介

9：20～10：10 ディスカッション（10分×5名）

10：10～10：30 総括

4. ゲストスピーカーの紹介

【山梨大学大学院総合研究部 准教授 秦 康範 氏】

○専門分野：地域防災、災害情報

○防災教育の取り組み事例

緊急地震速報を活用した抜き打ち避難訓練

2012年以降、山梨県内の30校以上の防災教育のアドバイザーを務めるなど、緊急地震速報を活用した抜き打ち避難訓練の普及を行って来た。抜き打ち避難訓練を通して明らかとなったのは、①従来の避難訓練は自分の教室の自分の机の下に隠れることになっていた、②緊急地震速報を聞いてもすぐに退避行動を取ることは難しい、③状況に応じて適切な身を守る行動を取る応用力が養われていなかった、の3点である。教師には防災教育ぐらい正解の無い教え方をしてほしいと願っているが、防災教育も過度のマニュアル化が進んでいる。ガラバゴス防災教育と揶揄したい現状について紹介し、防災を専門としている学会が中心となってこうした現状を打破すべきではないか問題提起を行う。



【群馬大学大学院理工学府 教授 金井 昌信 氏】

○専門分野：災害社会工学、地域防災、防災教育

○防災教育の取り組み事例

「防災を学ぶ」から「防災で学ぶ」防災教育へ

防災教育に関するマニュアルや指導案は数多く作成されており、防災の専門家によって多種多様な防災学習も提案されている。しかし、これらの情報が現場の先生方にどれほど活用されているのだろうか。また提案されている教育の実施効果は検証されているのであろうか。このような防災教育を取り巻く現状について問題提起するとともに、今後の方向性として、①実行できる人が限られる超優良実践ではなく、『誰でも実践できる』最低レベルの内容・やり方の徹底と、②『防災を学ぶ』から『防災で学ぶ』、すなわち防災を通じて自ら考え行動することを重視した学習活動について提案する。そして、この考えのもと、現在実践している3つの実践（①避難訓練の改善、②授業参観で防災を題材とした親子参加型授業、③避難所体験教室）について報告する。



【高知県土佐市立蓮池小学校 校長 吉門 直子 氏】

○専門分野：学校の危機管理、安全教育

○防災教育の取り組み事例

学校における防災教育の日常化



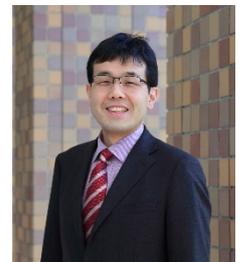
学校における防災教育は、地域や学校によって温度差があることが課題とされてきた。大学等の研究機関の協力を得た先進的な実践も多くみられる一方、時間の経過とともに社会全体の防災に対する意識が低下し学校における優先順位も変化している。また、教員の人事異動や人的・物的資源の変化に左右されることが大きい。さらに、例えば避難行動一つとっても「専門家」の知見が分かれることもあり、学校にとって防災教育をより難しく感じる現状もある。こうした課題意識から ①学校で防災教育を行う意義（何を学ぶか）②持続可能な防災教育の在り方（どのように学ぶか）③防災教育の成果をどのように考えるか等について、学校の実践とともに問題提起を行う。

【関西大学社会安全学部 准教授 城下 英行 氏】

○専門分野：防災学習論

○防災教育の取り組み事例

津波犠牲者ゼロを達成するための防災学習



大阪府の泉大津市立浜小学校の5年生を対象に2013年度から南海トラフ地震津波による犠牲者ゼロを目標とした防災学習を実施している。当初は、大学主導で学習テーマを設定していたが近年では、学校側からも積極的に提案があり、2020年度は津波AR、2021年度は津波防災プロジェクションマッピング、2022年度は防災ゲームの制作をそれぞれ実施した。いずれの年も実施後のふりかえりでは肯定的な評価を得ている。ややもすると、取り組み内容を比較し、優劣を論じたくなるが、防災の裾野を拓けるという観点からは、取り組みの間で優劣をつける積極的な意義を見出すことはできない。単なる何でもありと、防災の裾野を拓けるための何でもありの違いについて考えたい。

【東北大学災害科学国際研究所 助教 新家 杏奈 氏】

○専門分野：避難行動、防災教育

○防災教育の取り組み事例

継続的な防災教育の効果測定と実施サポート



東日本大震災の被災地にて、学校や自治体が主体となって実施する防災教育のサポートを行ってきた。複数の現場では、継続的な防災教育が行われており、一定の教育効果が示されている。近年、防災教育を継続的に行うことの重要性が指摘されているが、主力となる職員の移動や教育現場の忙しさ等、様々な理由により、継続的な防災教育の実施が難しい現場も見られている。このような現場の状況を踏まえ、①地域ごと・教育対象ごとに多様に生じるニーズを満たす学習を企画し、②地域が自走して学習を運営できる仕組みづくりを行うことを、継続的な防災教育を行うためのサポートのあり方の一案として提案し、具体的な事例についての報告を行う。